



りんご特報 No.6

令和7年7月2日

J A中野市園芸課

J A中野市りんご・もも部会

【炭疽病対策 特別散布】

降水量が多く炭疽病等の感染が心配される場合は、特別散布を実施下さい。

散布時期	7/8~14 頃		【特別散布】 散布日 ____月 ____日(____)
散布薬剤	水	100ℓ 当たり	
	展着剤 (ハイテンパワー)	10ml	
	オーソサイド水和剤 80	125g	
対象病害虫	炭疽病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病		
散布量	600ℓ / 10a		

【第9回 定期散布】 * 散布時期は目安です。

散布時期	7/15~21 * 前回から 14 日以内	【定期散布】 散布日 ____月 ____日(____)
散布薬剤	水	100ℓ 当たり
	展着剤 (スカッシュ)	100ml
	キノンドー顆粒水和剤	100g (14 日前、4 回)
	エコマイト顆粒水和剤	50g (前日、1 回)
	オーソサイド水和剤 80	125g (前日、6 回)
	劇オリオン水和剤 40 (カルタス (カルシウム葉面散布剤) 100g)	100g (前日、2 回)
対象病害虫	輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、ハダニ類、キンモンホソガ	
散布量	600ℓ / 10a	
注意事項	①【代替】キノンドー顆粒水和剤に代えて、ベルコートフロアブルの1,500倍 (前日、3回) でもよい。 ②【カメムシ類対策】キラップフロアブルの2,000倍 (14日前、2回) を特別散布する。 ③【ドリフト注意】エコマイトはりんご、おうとう、ぶどう、なし以外登録がないので飛散しないように注意する。 ④オリオン水和剤 40 は劇物登録農薬です。購入の際は印鑑をご持参ください。	

次面もご覧ください。(ハダニ対策)

高温対策について

1. かん水

●目的：園地内の湿潤状態の維持・地温上昇抑制・土壌水分の激変緩和・日焼け防止 他

・かん水設備がある場合：晴天日数が概ね5～6日続いたらかん水を行う

＊1日当りの散水量10mm程度（目安）

・かん水設備のない場合：タンク等で水を運んで根元に集中的にかん水する

＊1樹当たり100～200ℓ位（目安）

・かん水時間帯：夕方が望ましい ＊ジクジク吸収させるため

・土壌水分激変緩和のため、特に梅雨明け後5日以内に降雨がない場合は、早急にかん水を行う

・打ち水効果を狙った日中のかん水

地面に撒いた水の蒸発効果により地表面の温度を下げ、そこから熱放射を和らげ園内の気温の低下を促す。尚、打ち水効果を最大限に活かすためには、緑陰部分（草部分等）への散水が最も効果的

2. 保水

●目的：蒸散防止・地温上昇抑制 他

・盛夏期前に敷きワラ・マルチ等を行う ＊早めに実施しておく効果高い

・敷きワラ方法：幹まわり2m中心に実施（厚さ5cm程度・根量が多い幹まわりの保水は効果高い）

・丈を長く残す草刈り方法：盛夏期に園内の草を通常より高めに刈っておくことで、地表面が強日照にさらされることなく、高温抑制になる（草があることで朝露等残り保水効果もあがる）

3. 日焼け防止

・日除け枝等の設置

・主枝・亜主枝等の背面部分は特に日焼け果が発生し易いため、徒長枝は全て切らずに30～50cm間隔に間引く程度に切除して日除けする

・直射日光の当たる太枝の背面等に白塗剤（フジホホワイトや農業用白ペンキ等）を塗布する

・日焼けの発生が心配される園の南～西側に寒冷紗資材を設置する

ハダニ対策について

・例年よりも「梅雨明けが早まると予報」されているため、梅雨明け後のハダニ類の発生増加に注意して下さい。

・7月上旬からハダニ類の発生が見られる場合は、コロマイト乳剤の1,000倍を特別散布して下さい。（または、第8回定期散布に加用して下さい。特報No.5参照）

・防除ポイント

下草刈りを行ってから2～3日後を目安に、薬剤散布を実施すると効果的です。

栽培日誌の配布について

7/18または8/4に配布を予定しております。ご理解とご協力をお願い致します。

次回特報発行予定

7/18